

第4章 大阪市の生涯学習の未来像

1 基本理念「つながり、支え合い、共に育つ生涯学習」の推進

今日の社会では、人口減少、少子高齢化、外国人住民の急増、地域コミュニティの変化や、家庭・市民・子どもに関わる課題の多様化や頻発する災害など社会状況の変化により、未来が予測困難な社会となっています。そのような状況の中、社会的な格差が、必ずしも所得や経済状況だけでなく、教育、情報等様々な場面で現れています。

また、デジタル技術は単なる情報収集の手段から私たちの生活や社会基盤を支える不可欠なインフラとして進化しつつあります。生涯学習の現場においても、デジタル技術は、人と人、人と社会をつなぐ共生社会の基盤として、あらゆる学びの可能性を拓ける手段といえます。急速にデジタル社会が進展する中で、地理的な制約、年齢、性別、障がいの有無等に関わらず、誰もがデジタルの恩恵を享受することで、豊かさを実感できる、「誰一人取り残さない」生涯学習の支援が重要です。

加えて、平成 27(2015)年9月の国連サミットで採択された SDGs に寄与する観点から、「多様性(ダイバーシティ)¹⁴と包摂性(インクルージョン)¹⁵」の視点に基づき、社会の対等な構成員としてそれぞれの主体性を発揮できる、「人生100年時代」に相応しい生涯学習の在り方を模索していきます。17の開発目標(ゴール)のうち「目標4 質の高い教育をみんなに」に関しては「すべての人々に包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」とされています。その目標達成をめざし、これまで生涯学習に結びつきの薄かった層のニーズ喚起も含めて「誰一人取り残さない」生涯学習の推進を図ります。さらに生涯学習活動は、「目標11 住み続けられるまちづくりを」をはじめ、開発目標の多くに関連し、それぞれの目標をつなぐものであることから、様々な課題に向かう市民の学びとの連携・協働を通して、持続可能な社会の形成をめざします。

以上を踏まえ、第5次計画では、第4次計画における基本理念を引き継ぎ、「つながり、支え合い、共に育つ生涯学習」を基本理念とします。

¹⁴ 多様性(ダイバーシティ) … 人としての多様な外見上の違いや内面的な違いに関わりなく、認め合い、受け入れ、共に生きること。

¹⁵ 包摂性(インクルージョン) … 「包摂」とは包み込むこと、排除・除外しないことの意味であり、本計画においては「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という社会的包摂(ソーシャルインクルージョン)の意味で用いている。



図 5 SDGs 17 の目標

2 めざすべき未来像

第5次計画では、第4次計画に引き続き、令和12(2030)年以降の社会を見据え、市民一人一人の自発的な学びを支えるとともに、「市民力」を身につけ、学習した成果を社会に還元できるよう、2つのめざすべき未来像を掲げます。

(1) 誰もが主体的に学び続け社会に参画できるまち

「ひと」が生涯を通して学び続けるための生涯学習として、主に「個人」に着目しています。

SDGsに謳われているように「誰一人取り残さない」生涯学習社会の実現に向け、これまで学習から疎外されてきた人や、社会的に弱い立場の人、急増する外国人住民等、支援を必要とする人の学びを支え、エンパワメント¹⁶を図るとともに、多様性(ダイバーシティ)と包摂性(インクルージョン)の観点に基づき、すべての人の人権が尊重される社会の形成をめざします。

また、人生100年時代においては、従来の教育→仕事→引退の「単線型」人生から、複数のキャリアや活躍の場を持ち多様な人生を歩む「マルチステージ型」人生への移行にともない、すべての人がどのライフステージ¹⁷においても主体的に学び続け、心豊かな人生を送ることができる社会をめざします。近年では個人の生き方が多様化しており、生涯の過程は様々であることから、ライフコース¹⁸という概念が用いられるようになってきました。本計画では施策の方向として、子ども・青少年、成人それぞれの学びについて「ライフステージに応じた生涯学習支援」として、「ライフステージ」を用いていますが、多様性の観点で「ライフコース」の考え方についても尊重するものです。

また、大阪の子どもたちが、育った環境に左右されず、主体的に学びに向かう意欲を、学校と地域、多様な主体の連携・協働により社会総がかりで育むことをめざします。

さらに、いつ起こるかかわからない災害をはじめとする身近な問題や社会経済状況の変化等に対して、市民一人一人が主体的に考え、他者と協調しつつ適切に対処できる「市民力」の育成を図ります。

(2) 多様な市民が支え合い共に生きるまち

支え合い共に生きるまちづくりのための生涯学習として、「人と人との多様なつながり」に着目しています。

¹⁶ エンパワメント … 「力をつけること」と訳される。個人が本来持っている潜在的な力や可能性を引き出し、その人らしく社会参加する中で、文化的、社会的、政治的、経済的状況などを変えていく力を身につけることにつながる。

¹⁷ ライフステージ … 誕生、就学、就職、結婚、出産、退職等、人生の中で重要な出来事によって変化するステージのこと。

¹⁸ ライフコース … 生き方が多様化する中で、従来の平均的な人の一生をモデル化したライフサイクルや標準的なステージ設定ではなく、個人がたどる生涯の過程、道筋をいう。

本市では、地域社会の共有財産である学校を核とし、地域社会の中で子どもの健全な発達をめざす「教育コミュニティづくり」を進め、本市独自の地域生涯学習の推進を図ってきました。この「教育コミュニティづくり」を一層充実させ、地域と学校の協働を推進していきます。

予測困難な社会の変化の中で、市民が共に困難を乗り越え対応していくためにも、「見守り」「声かけ」「手助け」などを通して他者と緩やかにつながり、支え合う、安心できる居場所づくりを進めます。

そして支えられ、安心できる居場所を得ることによって、「支えられる側が、支える側へ」つながるような循環を促進し、多様な主体の連携・協働によるつながりづくり、いわゆる「新しい公共¹⁹」を担う人づくりを進めます。

3 最重要目標

第5次計画では、めざすべき未来像の実現に向け、次の3つの指標を最重要目標とします。この3項目については、理念を共有する「大阪市教育振興基本計画」と同じ目標としています。なお、第5章の施策の内容ごとにも成果指標を設定しており、目標達成に向けて各取組を進めます。

項目	現状値 (令和6(2024)年度)	目標値 (令和11(2029)年度)
〔めざすべき未来像(1)〕 「識字・日本語教室等に参加することで、より暮らしやすくなった」と回答する参加者の割合 【参加者アンケート】	91.2%	95.0%
〔めざすべき未来像(1)〕 「生涯学習センターの講座等をきっかけに、様々な学習や活動につなげたいと思うか。」に対して肯定的に回答する参加者の割合 【参加者アンケート】	—	90.0%
〔めざすべき未来像(2)〕 「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。」に対して肯定的に回答する小中学校の割合 【全国学力・学習状況調査】	小学校 94.3% 中学校 88.5% (令和7(2025)年度)	小学校 95.0% 中学校 90.0%

¹⁹ 「新しい公共」… これまで行政が担ってきた公共的なサービスや、行政だけでは解決が困難であった課題に対し、教育、子育て、まちづくり、防犯・防災、医療・福祉、環境、雇用、国際協力等の身近な分野において、行政だけでなく、市民やNPO法人、企業等が主体となり、共助の精神で取り組む仕組み、体制、活動などをいう。